

2025 年第 13 回全国グライダークラブミーティング 議事録(2 日目)

日時：2025 年 10 月 29 日(日) 9:00-12:00

場所：クリアビューGC&ホテル 〒278-0012 野田市瀬戸 548

幹事クラブ：NPO 法人関宿滑空場

参加団体・氏名

※敬称略

NPO 法人関宿滑空場：篠原、伊藤、山内、赤堀、江副(KSC)

Gliding Japan 編集部：堤

(公社) 滝川スカイスポーツ振興協会(SATA)：日口

(公社) 宮城県航空協会：齋藤

(公社) 長野グライダー協会：畔上

諏訪市グライダー協会：津久井

(公財) 日本学生航空連盟：栗山

(公社) 日本グライダークラブ(JSC)：吉岡

中部航空連盟：佐々木

ヤマハソアリングクラブ：迫田

大野グライダークラブ：三田村

NPO 九州グライダースポーツ連盟：牧田

(公社) 日本滑空協会(JSA)：佐志田

13 団体 17 名

若年層の取り込みについて

- ・日本学生航空連盟から社会人クラブの入会を奨励してほしい
- JSA から方向舵に各滑空場の一覧を掲載させてもらっている
- 一覧表だけではなく、記事などの PR も載せてほしい

以下は各クラブの取り組みの紹介

○ヤマハ SC

- ・航空部 OB からは「勘弁してくれ...」という反応がほとんど
- 誰かに憧れてというよりも空そのものに憧れて入る方が多い
- 空を通じて人生を豊かにするという理念
- ・若い人≠学生と考えている
- ・社内のグライダー体験イベント
- 10~50 倍の倍率
- ただ体験飛行をするのではなく、事前の座学を実施していく
- ・年齢での分け隔ては特に無い

○大野グライダークラブ

- ・シミュレーターはウケがいいと感じる
- 見るだけでなく、実際に触れるのは大きい
- 入会金そのものが無い
- ジュニア会員→半額
- 高校生まで
- 影響力の大きい人間による呼びかけはどうか？
- 若い指導員

ユース会員（非学生）のみでの運航（合宿）

→楽しそう

複座：20分、40分で区切り

単座：1時間で区切り

○(公社)長野グライダー協会

- ・村石スポーツ財団
- ・みらいハッケンプロジェクト

○中部日本航空連盟

- ・若い世代の取り込みが難しい

○アサヒ SC

- ・複座は30分滞空で区切っている
 - ・単座は好きなだけ飛ばすようにしている
- 個人の能力限界まで飛んでもらう機会を提供している
- ・イニシャルコストを下げて会員を確保している
- 新社会人にとってありがたい

○諏訪市グライダー協会

- ・クラブとしてのコストは低いと考えている
- 反面、交通費が高い
- 東京、名古屋からの距離がある
- 学生の参加が多い
- ・中央、法政のOBOGフライトを霧ヶ峰で開催している
- 定着しているかというところでもない...
- ・地元のクラブ員の負荷が大きい
- 学生を飛ばすために2週間ぶっ続けなど
- ・トイレ問題
- 令和の時代に汲み取り式は厳しいかも
- ・諏訪周辺の企業に依頼できないか？
- エプソンなど

○SATA((公社)滝川スカイスports振興協会)

- ・青少年会員(中高生)
- ときどき飛びに来てくれる程度
- ・ユース会員
- サマトレと抱き合わせで伸びている
- ※フライト料金は正会員と同じ
 - ・料金と若年層の取り込みの相関性はあまりない考える
- ほかのクラブも同じでは？と思っている
- ・空のふるさと事業
- 中高生の時に空に憧れ、スカイパークでグライダーに取り組み、その後航空業界で活躍しているパイロットやキャビンアテンダントを招聘し、こどもたち（メインターゲット：中高生）に大空に対する憧れを持ってもらおうという事業。（企業版）ふるさと納税の一部を活用。

○JSC((公社)日本グライダークラブ)

- ・ラインサポーター制度
 - ・ライフステージが変わったときに離れてしまう...
 - ・ユースキャンプ
- 全国大会が終わってしまうと目標がなくなってしまう

→「プッシュ」のモチベーション
・ソアリストカフェ
→各滑空場の紹介(意外と知らない)

○(公社)宮城県航空協会

①各クラブの若い人を受け入れるシステムの紹介（優遇策、広報、その他）

- ・入会金額の割引

通常¥100,000のところ、

20歳以下：¥75,000の割引（¥25,000の負担）

21～30歳：¥50,000割引き（¥50,000の負担）

- ・飛行料金割引

飛行料金は3つの会員クラスに分かれているが、30歳以下は、1番安い料金（オーナー会員料金）で飛行することが出来る。

外部からの受け入れ者（臨時会員）に対する割引

20歳以下：オーナー料金（1番安い）で飛行可能

21歳～30歳：ファミリー会員料金（2番目に安い料金）で飛行可能

②若い人が社会人クラブに入るうえで、若い人が障害に感じている事として何があると各クラブでは考えているか

- ・金銭的な負担
- ・時間的な問題。仕事、家庭とのバランス
- ・滑空場への移動距離（大学航空部出身者で宮城県で就職する若者が少ない）

③②に対してどんな対策を打っているか

- ・入会金、飛行料金を安く優遇（①の通り）
- ・1日拘束しなくてもよい雰囲気づくり
※現状実践できていないがこれから実施したいこと
→滑空場トイレ、クラブハウス等の環境整備

○NPO 法人関宿滑空場

- ・30歳以下は3年間半額
- ・中高生→NSSP 中心に GAPA の体験搭乗(乗るだけ)や格納庫見学など
- ・熱気球の体験搭乗

フライトをどのように分配しているか

・アサヒソアリングクラブ
→フライトそのものは隔週実施している
→複座は30分滞空で区切っている
→単座は好きなだけ飛ばすようにしている
→個人の能力限界まで飛んでもらう機会を提供している

- ・ヤマハ SC

→初めての人が5分というのはかわいそうなのでモーターで飛んでもらっている

- ・NPO 九州グライダースポーツ連盟

→学生合宿が詰まると社会人のフライトができず、半年飛ばないときもある

→場合によっては社会人が学生に混ざることもある

夫婦会員制度について

- ・やめてしまう理由の一つに結婚やパートナーの理解が得られないといったものがある

→SATA も同じ制度があるが二人そろって続けてくれない(旦那さんが続けるパターンがほとんど)
→諏訪市グライダー協会、長野グライダー協会も同様の制度あり

学連：栗山さんのお話

※あくまで学連代表であって学生代表ではない旨を念押し

- ・社会人クラブに行ったことが無いため楽しいのかどうか何とも言えない
- 苦手な人・口うるさい人(OB・OG)がいると敬遠しがちになる、親しげな人間関係があると良い
- ・人材として、学連では“苗”ぐらいまでは育てているのに続かないのはなぜか
- 燃え尽き症候群？
- 団体活動で人間性の成長も見込める反面、やり切った感がでてしまうということも否めない
- ・卒業しても飛びたいと考えている若手は、黙っていても生活基盤に近い社会人クラブを自ら探して入っている。そうでない若手の掘り起こしが今回のポイント。待ちの姿勢では入ってこない。社会人クラブ員の母校繋がりなどを通じて親しく声をかけて誘うのが効果的では。
- ・おじさんばかりのクラブに若人が入会するか？←おじさんばかりでも楽しいと思えば入るのでは？

大学航空部卒業後の社会人クラブ入会について

- 慶応：特に他のクラブに入ること自体は問題無い認識
- 早稲田：紺碧 SC が早稲田 OBOG 主体から社会人クラブへの転換
- 信州：卒業生が会員になった例はほぼ無い(京大 OB が少数入会)
- 仕事によって離れてしまう
- NPO 九州も同様とのこと

アメリカでの例(リョウコさん)

- ・中高生に機体の整備を体験させる
- 10 時間整備したら 1 時間フライトできる
- 上記の取り組みを利用してインストラクターなどを輩出している
- 輩出した人材がまたボランティアで戻ってきてくれるというサイクルが出来上がっている

青山大学

- ・OB 会の目標「いかに学生に美味しい思いをさせるか」

ヨーロッパの取り組みはどんなものがあるのか？

- ワッサーカップのランチョンペーパーによると 900 のクラブがある！？
- IGC の報告：世界的にグライダー人口が減っている
- 日本の大学航空部が割と稀有なケース
- 日本の大学航空部では個人的なスポーツが団体活動として扱われている

30km 章

- ・津久井さんより資料をご提供いただく
- ・ルート：関宿-板倉間の 32km
- ・ターゲット：ライセンスを取ってある程度経験を積んだパイロット
- ・他の滑空場に降りる際に心理的なバリアがある
- 訪問してバリアを取り除きたい

議事録は以上

以下若年層の取り込みに関するトピックのまとめ

1 【人間関係】

- ・社会人クラブでも大学の先輩／後輩の関係がそのまま残っている
- ・苦手な人がいるクラブが近寄りづらい

2 【会費】

- ・ほぼすべてのクラブが何かしらの優遇措置を図っている
- ・料金の安さと定着率に相関性は無い？

3 【ライフステージ】

- ・結婚、出産といったイベントはどうしても障害として大きい

4 【勤務】

- ・卒業後に勤務地が遠くになると離れがち
- ・大学所在地の近くで就職するケースが少ない(特に地方大学)
- ・滑空場近隣の企業にアプローチをかけてはどうか？

5 【パートナー】

- ・理解が得られない

6 【燃え尽き症候群】

7 【自束自縛】

- ・OBOGとして所属していた部に尽くさないといけないという気持ちがある
- ・他所の滑空場へ遊びに行き辛い

以上